

# ネパール大地震と『TORU(トオル)学校』

4月25日と5月12日にネパールではマグニチュード7.8、7.3クラスの大地震があり、8,500人以上の方々が亡くなられ、ネパールの人口の約30%にあたる800万人以上の方が被災しました。多くの建物が崩壊し、全壊した校舎も6000校以上ありました。

遺愛 K16 回生に綾部弘子さんという方がいらっしゃいますが、ご夫妻でネパールに子供たちのための学校を17年前につくり、これまでずっと支援してきました。なぜネパールに綾部さんご夫妻が学校をつくったかといいますと、18年前に当時21歳だった息子の融(トオル)さんと関わりがあったからでした。融さんは、以前に友人とネパールを旅行し、とても優しくフレンドリーなネパール人のことが大好きになっていました。その後、ネパールからチベット～成都までの自転車単独旅行の際、チベット＝エラム(5,030m)で病死されました。(1997年2月27日)

日本での葬儀の際には、たくさんの友人が参列し、お香典を寄せてくれました。そのお香典を何とか、お世話になったネパールの人達のためにいかせないかのご夫婦で考えていたところ、ネパールに学校建設を進めていたNGO市民団体を新聞で知り、その団体を通して、ネパールのフルバリ村に小学校を作ることにしました。ネパールでは1945年に男子が学べる学校制度はできましたが、人口900人で、低いカーストが住むフルバリ村には1990年代になっても、小学校すらありませんでした。

しかし綾部ご夫妻の支援で、1998年2月27日に3年制の小学校がはじめてできました。学校名は、綾部さんの息子さんの名前にちなんで「TORU小学校」、入学生は初年度から150人以上となりました。最初、女子は少なかったのですが、だんだん増えていきました。その後もネパール側の要請もあり、13年間支援を継続し、中学・高校まで建設しました。その間、学校は政府校として認可、登録され、現在の正式名称は「スリ.グヘソリ.セカンダリースクール」となり、「TORU学校」の名称は、日本でのニックネームとなりました。

最初の地震では「TORU学校」は倒壊を免れました。でも生徒の家が相当な被害にあっており、TORU学校は今、家を失った人々の避難所になっているそうです。情報については1回目の地震後の情報のみで、その後2回の大きな余震以降、確かな情報は伝わっていません。綾部さんは、ネパールの子供たちのために、また、学校再開のために手助けして欲しいと募金を遺愛にお願いしてきました。ぜひ応えたいと、今、生徒会を中心に動き始めています。

2015年5月22日(金)



TORU 学校



綾部融さん



TORU 学校の生徒の皆さん